

東日本大震災小児医療復興新生事務局会議(第8回) 議事録

平成29年7月13日 13:00-16:00

杉妻会館 3F 石楠花(福島市)

1 開 会

事務局 岩手県医療局医師支援推進室 多賀聡担当課長 挨拶(引き続き進行役)

2 自己紹介

〈出席者〉

[事務局]

- | | | | |
|------|-------------------|------------|--------|
| ・岩手県 | 医療局医師支援推進室 | 参与 | 山本 昭 |
| | 同上 | 医師支援推進担当課長 | 多賀 聡 |
| ・宮城県 | 保健福祉部医療政策課 | 課長補佐(班長) | 須藤 敬行 |
| | 同上 | 主査 | 羽柴 功子 |
| ・福島県 | 保健福祉部地域医療課医療人材対策室 | 主任主査 | 十文字 高志 |

オブザーバー

[日本小児救急医学会 災害医療委員会 東日本大震災継続支援ワーキンググループ(WG)]

- | | | | |
|-----------------|----------|----|-------|
| ・東京都立小児総合医療センター | 救命・集中治療部 | 医長 | 齊藤 修 |
| ・埼玉医科大学総合医療センター | 小児科 | | 板倉 隆太 |

[同WG・支援受入病院]

- | | | | |
|---------------|-------|--|-------|
| ・岩手県立大船渡病院 | 総括副院長 | | 洵向 透 |
| ・福島県 公立相馬総合病院 | 診療部長 | | 伊藤 正樹 |

3 報告・協議事項

(1) 日本小児救急医学会 災害医療委員会 東日本大震災継続支援WGと本事務局会議の主旨・経緯説明(報告)

○ 震災から本事業(小児医療支援)に至った経緯をスライドにより説明(齊藤)

- ・ 日本小児科学会の会員数は約2.1万人、その下部組織である日本小児救急医学会は約2千人である。本事業は日本小児救急医学会が主導して設立され、日本小児科学会の後援を得ている。
- ・ 震災後、小児救急医療の需要と被災地病院の現況を聴取し支援受入に対する意向を確認した。さらに関連する医局の方針、当該病院医師・職員のインセンティブの有無などを確認しながら、現在に至っている。今なお支援できる病院を増やそうと取り取り組んでいる。
- ・ これまでの支援受け入れ施設は、地域の基幹病院を主体に組み入れた。
- ・ 人口比ではカバーしきれない広大なエリアの被災地を何とか支援していかなければならない。
- ・ 日本小児救急医学会から、当該事業への支援は、3.11の際に寄せられた浄財から拠出している。

○ 各県から現状を報告

〈岩手 瀧向〉

- ・ 岩手県では新規申込が少なくなっているが、支援申し込みは続いている。
- ・ 現在、久留米大学から初期研修医の地域医療研修（今年度は約9名）を当院で受け入れているが、同様の申し込みが聖隷佐倉市民病院（千葉県）、杏林大学からもある。本事業の直接的な成果ではないが、いずれも本事業をきっかけとして知り合った小児科医からの申し入れである。現在沿岸部病院（釜石、宮古、久慈）に声を掛けて受け入れを検討中である。
- ・ 本事業を通してではないが、遠野病院にこの4月から千葉県から一人常勤で着任した。
- ・ 現在募集地域は限定していないが、遠方からの支援については、費用対効果を考慮する必要がある。岩手県では基本的には受け入れている状況だが、今後募集地域を限定するかどうか検討する必要がある。
- ・ 新たな支援受入施設についてであるが、久慈病院を検討している。常勤医が一人であり、岩手医大、病院側と調整したい。

〈福島 伊藤〉

- ・ 福島県は3病院あるが、相馬総合病院は原発絡みで子供がいなくなった。だから、支援に来て患者が少なく、来て下さる支援医に気を遣う場合もある。
- ・ 支援医には、日曜日の9時から16時までの休日診療ということで、対応頂いている。最近は一ピーターが多く、開業している医師や神戸からも来ていただいております、毎週のように週末は埋まっている状況だ。
- ・ 今小児科の常勤医は、3名いる。休みの日には、一人は病棟を担当するが、支援医のおかげで2人は休める状況であり、休日当番が楽になっている。
- ・ 電子カルテなど教えたりするのに時間がかかる場合もある。
- ・ 公立岩瀬病院や南会津病院では費用対効果も考えなくてはならない場合も多いだろう。
- ・ 地域医療再生基金が今年度で終期を迎え、30年度以降の事業のあり方は検討が必要である。

〈板倉〉

- ・ 事務局ホームページには、相馬総合病院の写真が多くなっている。ページ更新を継続するためにもそれぞれの病院から、声掛けをして写真などの情報を頂きたいと思う。
- ・ 岩手で支援を受けている先生の意向も確認しながら、コメントをいただけないか確認して頂きたい。

〈齊藤〉

- ・ どんな小さな情報、写真でも、是非ホームページ更新のためのコンテンツを提供頂きたい。
- ・ 一番重要なことは、ホームページの更新を継続することであると考えている。
- ・ 震災の状況でも良いし、復興状況などでも良い。
- ・ インターネットの力は強いと感じている。また 広報活動として2、8月の日本小児科学会雑誌にチラシを同封、配布して頂いている。その上同学会ホームページにリンクを掲載頂いている。
- ・ 公立相馬総合病院に派遣される小児科医師に係る福島県からの財政支援について、今後も継続されるのか？

〈福島 十文字〉

- ・ 国の平成29年度予算において、地域医療再生復興基金の積み増し（236.3億円）が行われたことを受けて、本県では、当該基金を財源として、相双地方を含む浜通り地域の病院・診療所が行う医療支援に係る経費を補助する事業（「浜通り医療提供体制強化事業」）の平成32年度までの継続について、事業計画書を提出したところである。

本日現在で、国から正式な内示は出ていないが、本県の要望のとおり、平成32年度までの事業継続が認められる見込みである。

〈宮城 須藤〉

- ・ 30年度は、県から石巻市への助成がなくなる。
- ・ 現在は、旅費と報酬が半分基金から出ている。
- ・ 石巻市では、市の単独支給の方向で検討中だ。ただし、遠方からの支援は費用対効果を検討しなくてはならない。

(2) 事務局の活動状況等（支援実績を含む）について（報告）

〈齊藤〉

- ・ 活動実績の（ ）内の今年度の数字は、新規の医師か。28年度の全くの新規は何人か。

〈岩手 多賀〉

- ・ 平成27年度以前に来ていたリピーターの医師も入っていると思う。名前を拾ってみればわかると思う。調べてみる。

(3) 現在の支援医師募集内容の確認について

《変更なし》

(4) 次年度以降における支援受入施設の対応等について（協議）

〈洩向〉

- ・ 先ほども話したが、久慈病院か。久慈病院が了解すれば大丈夫だ。

(5) その他（意見交換）

〈齊藤〉

- ・ 当初は3～5年で行政へ移行する見込みで当事業はスタートした。
- ・ 地域医療は、本来、日本小児救急医学会や本事務局ではなく、厚生労働省などがやるべき事案であるが、一地域医療支援モデルとして本学会としてはこれまで通り継続したい。

〈岩手 多賀〉

- ・ 岩手県とすれば、現場が助かっているという事実があり本事業に大変感謝している。
- ・ もうしばらく復興するまでの間、このまま支援を受けるこの事業が続けられればとも思うが、宮城県や福島県で続けるのが難しくなってきたときに、事業継続の判断をしなければならないことはあると思う。

〈齊藤〉

- ・ それでは、今後も、地域医療の継続支援ということによろしいか。

《異議なし》

〈齊藤〉

- ・ それでは、本事業は継続することとしたい。

4 その他

- ・ 次回事務局会議の開催について（開催地：岩手県を予定）

平成30年度は、岩手県で開催することを確認し、時期的には議会等のため7月の第2目週以降に盛岡で開催予定とすることで閉会した。

- ・ 次回の協議等の内容について

《特になし》

5 閉会

記念写真撮影（各県毎、集合写真）

追加資料

表1 年度別新規申込数

年度別	岩手	宮城	福島
H.23	1	0	0
H.24	19	6	4
H.25	21	9	11
H.26	20	15	23
H.27	21	10	11
H.28.	9	2	10

表2 年度別実支援日数

年度別	岩手	宮城	福島
H.25	234	43	102
H.26	339	41	49
H.27	436	48	85
H.28	335	51	67